

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Lindenwood University

**留学期間** : 平成 25 年 8 月 19 日 ~ 平成 29 年 5 月 30 日

今回の報告は 2016 年度の秋 semester についてです。次の semester でいよいよ私の 4 年間のアメリカでの大学生活が終わります。この 3 年半はとても内容が濃く、大変短いように感じました。今回の semester はいろいろな人と幅広く付き合えて、学校は忙しかったですが、とても楽しかったのが印象的です。下記が今 semester の授業のスケジュールです。

月、水、金 10:00-10:50 Art History (History of Western Art to 1300)、12:00-14:50 Drawing II、水 15:00-17:50 Senior Seminar、火、木 8:00-8:50 Concepts in Biology、木 14:30-17:00 Biology Lab (Concepts in Biology)、そして semester 後半からはインターンシップと Directed Research (Art History) に取り掛かりました。成果としては、最終的に全てのコースで A を取ることができましたので、頑張ってたよかったです。これにプラス、キャンパス内でのアルバイトを週 15 時間していました。

Art History は週 3 日のクラスと毎週末にオンラインクイズがありました。毎回教科書を読むのが大変ですが、それさえ読んでおけばクラスにもついていけますし、クイズもそこから出るといことがわかっていたので、今回は前回他の Art History のクラスを取った時よりは効率よくこなせたと思います。その他に、テストがファイナルを含めて 3 回ありました。テストも包括的なものでなく、そこまでの単元だけがテストに出るので（例えば、2 回目のテストは 1 回目のテスト範囲を含まない）、そこまで大変ではありませんでした。先生は毎回フラッシュカード（表に小さくコピーしたアート作品の写真を貼り、裏面にアーティスト、制作年、時代、スタイルを書く）を作ることを勧めていて、それを作ると大概の事柄は覚えることができました。パソコンを使ってフラッシュカードを作成してもいいのですが、私は physical なものの方が好きなのであえてカードを使いました。また、physical なカードであれば、持ち歩いて空いた時間にどこでも暗記することができるのでお勧めです。私はよくカフェテリアでご飯をとるために列に並んでいる時に暗記していました。

Drawing II はお気に入りの先生だったので、とても楽しんでクラスを受けることができました。このクラスは honor クラスとして取っていたので、クラス内に制作する絵と課題として描く絵以外に 20 枚自分で題材を考えて描きました。1 つの絵に最低 3 - 4 時間はかかるので、とても大変な課題でしたが好きなことなのでそこまで苦にならずにできたのが良かったです。クラスでは、外にも絵を描きに行ったりして、とてもリラックスした楽しいクラスでした。

Senior Seminar は Art Department に属する senior の生徒が全員取るクラスで、アートのスタイルの全般の復習から、レジュメやカバーレターの書き方などを学びました。その他、どうやって自分をアーティストとしてビジネスの場でプロモーションしていくかなどの自己プロデュースについてもみんなで話し合いました。私はアーティストというよりもセラピストになりたいので、少し他の生徒とは方向性が違いますが、自分を売

るという意味では、どうやってインタビューに答えるかなど勉強になりました。レジユメやカバーレターなどのオフィシャルな paperwork のノウハウも教えてもらったので、有意義なクラスだったと思います。

火曜日と木曜日の朝は 8 時から Biology でした。このクラスは教養科目なので、freshman や sophomore の時に履修すればよかったのですが、他のクラスとスケジュールが重なってしまい、senior の status で取ることになってしまいました。（私の専攻のアートのクラスが 3 時間と長いので、他のクラスとスケジュールを合わせるのが大変なのです。）Biology はもともと好きですが、このクラスは特に先生がクラスを面白くしてくれるので、この先生のクラスを受けてよかったと思いました。その先生はややこしい biology のシステムの話をつかりやすくして面白い例え話にしてくれるので、すぐに頭に入りました。クイズとテストも他の biology の先生に比べると易しい方だったので、教養教科であれば簡単な先生を調べて取るのも良い成績を保つ方法の一つだと思います。友達に誰が易しいか聞くのも良いですし、Rate My Professor というサイトの先生たちの個別の評価を参考にするのも手だと思います。Biology の Lab のクラスは週に一回だけですが、ネイティブの生徒たちについていくのに必死でした。そのクラスはグループワークが中心で、3、4 人のグループで lab book を読んでその手順通りに実験や解剖をして、その過程を lab book に記録するというものでした。授業が始まる前に lab book の各セクションの導入部分を読み大体の内容を理解しておかないと、その日は何の実験なのか、どういうことを調べるためにその手順でいくのかということがわからなくなるので、大変でした。朝の授業で習うこと以外の知識も必要になるので、lab は lab 用に勉強しておくてはなりません。しかし、そのグループワークのおかげで友達ができたので、私はグループワークは基本的に嫌いです（個人の努力が見えなくなるので）、その時はとても感謝でした。そのグループの友達とは週末も遊ぶ仲になれたので嬉しい出来事でした。

Directed Research は自分で Art History の中でテーマを決めてそれについて 10 ページのリサーチペーパーを書くというもので、本から引用することが苦手な私にとっては少し苦痛でした。私のミスでこのクラスをセメスターの最初からではなく後半から取る羽目になったので、履修しなければならない科目の確認は再々行っておくことをお勧めします。アドバイザーがいても、その人も見落としていることはあるので、自分で責任を持つことが大事だと改めて思いました。私は卒業は（このままうまくいけば）最初から思っていた 2017 年 5 月ですが、履修科目を間違えると、卒業時期が延びてしまうこともあるので注意が必要です。

11 月頃からは Mental Healthcare Center でインターンシップをさせて頂くことになり、週に 15 時間ほど通っていました。思っていた以上にインターン先を獲得するのは大変でした。いろいろなところに電話をしましたが、インターンをさせて頂きたいという旨を伝えてから返事が来るまでに時間がかかったり、アプリケーションを書いて提出してから連絡が一向に来なかったりということが多々ありました。とにかく、向こうに鬱陶しいと思われてもいいから、自分から積極的に電話やメールをしていくことが大切だなと思いました。

やっと受け入れてもらったインターン先では、たくさんのことを学ぶ機会がありました。そこでは薬物中毒の青少年の回復の支援をお手伝いしました。まだ私が慣れていない時は tech の人たちのお手伝いをし、子供がレクリエーションで部屋から部屋へ動くたびに全員がちゃんとその場にいるかの確認と、15 分おきに全員がいるかどうかの確認をしました。薬物を使う子供たちの中には自殺願望を持つ子もいるので、絶対に大人の目下に置くことが大事だからです。そしてまた、逃げ出そうとすることを防ぐことにもつながります。レクリエーションや全体のスケジュールは 1 時間ごとに区切られていて、勉強する時間、ご飯の時間、映画を

観る時間、meditation をする時間などです。1時間ごとに時間が区切られているのは、学校生活や社会生活の中でスケジュールに従って動くことができるようになるためだそうです。集団生活からはみ出してしまふことが薬物に走るきっかけにもなることは多々あるので、この部分はとても大切です。

子供たちの勉強は、この施設が設けた学校があり、2つのグループに分けられた子供たちは毎日午前か午後ここで勉強します。年齢が皆ばらばらなので、個々にコンピューターが与えられ、各々のペースで各教科を学ぶことができます。その他のレクリエーションの時間は、映画を観て登場人物にどのような心理的な動きがもたらされたかななどをグループ全員で話し合います。私たち tech は子供たちの感想や意見を紙にまとめて記録とします。また、薬物中毒の回復を支援する団体が話をしに来たりします。

私が慣れてきた頃にはカウンセラーやセラピストのそばについて、個別のカウンセリングセッションを見させてもらうことができました。ここで働く人たちはとても優しく、セッションの中の彼らの行動一つ一つの意味を丁寧に教えていただきました。子供達も、カウンセラーやセラピストを信頼して話をしているのが伝わってきて、私もこのカウンセラーやセラピストたちのように可能性のある子供たちを支えたいと思いました。インターンを始める前は、セラピストになるために大学院へ行くか迷っていたのですが、この時に絶対に大学院へ行って立派なアートセラピストになると決めました。まだ1 3 5時間あるインターンの半分も終わっていないので、次のセメスターでもたくさん学びながら経験を積んでいきたいと思っています。

私は次のセメスターで卒業です。まだこの大学院に行くのかは決まっていますが、春セメスターで色々調べて、的を絞り込みたいと思います。このまま続けて大学院へ行くのは経済的に難しいので、一旦帰国し、お金を貯めてからまたアメリカに戻りたいと思います。インターンを通じて再確認したのですが、何事もわからない時はまず着手してみるべきです。私も、だいたいこういう風になりたい、というイメージはあったのですが、インターンを始める前はそれほど鮮明ではありませんでしたし強く情熱を感じたことはありませんでした。しかし、インターンを始めて実際の現場を見たときに、こういう職場で働きたいと強く願うようになりました。これから留学される方も、迷ってもとにかく行動してみてください。そうすることでそれが本当に自分がしたいことかがわかります。それが自分が望んでいることでなければ、また次のことにチャレンジすればいいですし、チャレンジしたという経験は無駄にはなりません。それが本当にやりたいことであればラッキーで、その経験がゴールを目指すモチベーションになります。私もこれから本番だと思うので、お互いに夢に向かって頑張りましょう！